

ビジネス変革をもたらすための
データ収集・活用基盤とは？

1. パナソニックグループの目指す「変革」とは？
2. グループ共通の「PX-データドリブン基盤」とは？
 - 導入の背景と全体像
 - 重視ポイント
 - 活用事例と利用者の声



1. パナソニックグループの 目指す「変革」とは？

1.お客様サービスのDX

デジタル技術を活用して
「暮らし」と「しごと」にお役立ちをご提供

幸せの、チカラに。



2.事業オペレーションのDX

ITの変革

オペレーティング・モデルの変革

カルチャーの変革







7つの原則

- 1) グループの重要な経営資源であるデータを、ステークホルダーの「幸せの、チカラに。」つなぐ
- 2) 経営者がデータの利活用と業務プロセスに責任を持つ
- 3) 「お客様を誰よりも理解する会社」になるために、顧客接点の多様性を活かし、データを徹底利活用する
- 4) 業務プロセスを絶えず進化させ競争力の源泉とする
- 5) システム化の前に、現場の業務プロセスの現状を把握し、標準化の範囲を明確にする
- 6) 標準化の定義を明確にし、経営者がコミットする
- 7) 現場も含めたグループ内で、データ・テクノロジーを利活用できる人材を増やし支援する

PX：データドリブン経営の実現へ

カルチャーの変革



Data Culture

業務や経営意思決定のプロセスにおいて
データを重視するマインドや行動が根付いている状態

カルチャーと
人材

- データ活用への経営層の直接関与
- 未来を予測するデータ活用へステージを変える

オペレーティング・モデルの変革



Data Literacy

ツールを利用してデータの可視化や分析を行える
基本スキル・知識を誰もが有する状態

組織間連携

- 共通の活用スキームやプラットフォームの重要性
- データ活用・分析における目的の明確化

ITの変革



Data Management & Infrastructure

常に必要最大限のデータが蓄積され、利用者にそれらの所在・
意義が公開され、スピーディにデータの取り出しが可能な状態

データ
マネジメント

組織間連携

- プロセスの標準化とMDMの重要性
- SSOT (Single Source of Truth)
- データオーナー・データスチュワードの定義
- 共通の活用スキーム・プラットフォームの重要性

ビジネス × IT

パナソニックグループのIT中核企業として、ビジネスの課題や要件を理解した上で、IT構築の全工程とその運用を担う

カバー領域

幅広い事業領域



様々な業務部門

マーケティング	設計調達	製造
販売物流	事業戦略	R&D/商品企画
設計・開発	製造・SCM	CS
経理	人事	総務
経営管理		

グローバル



IT化工程

経営課題

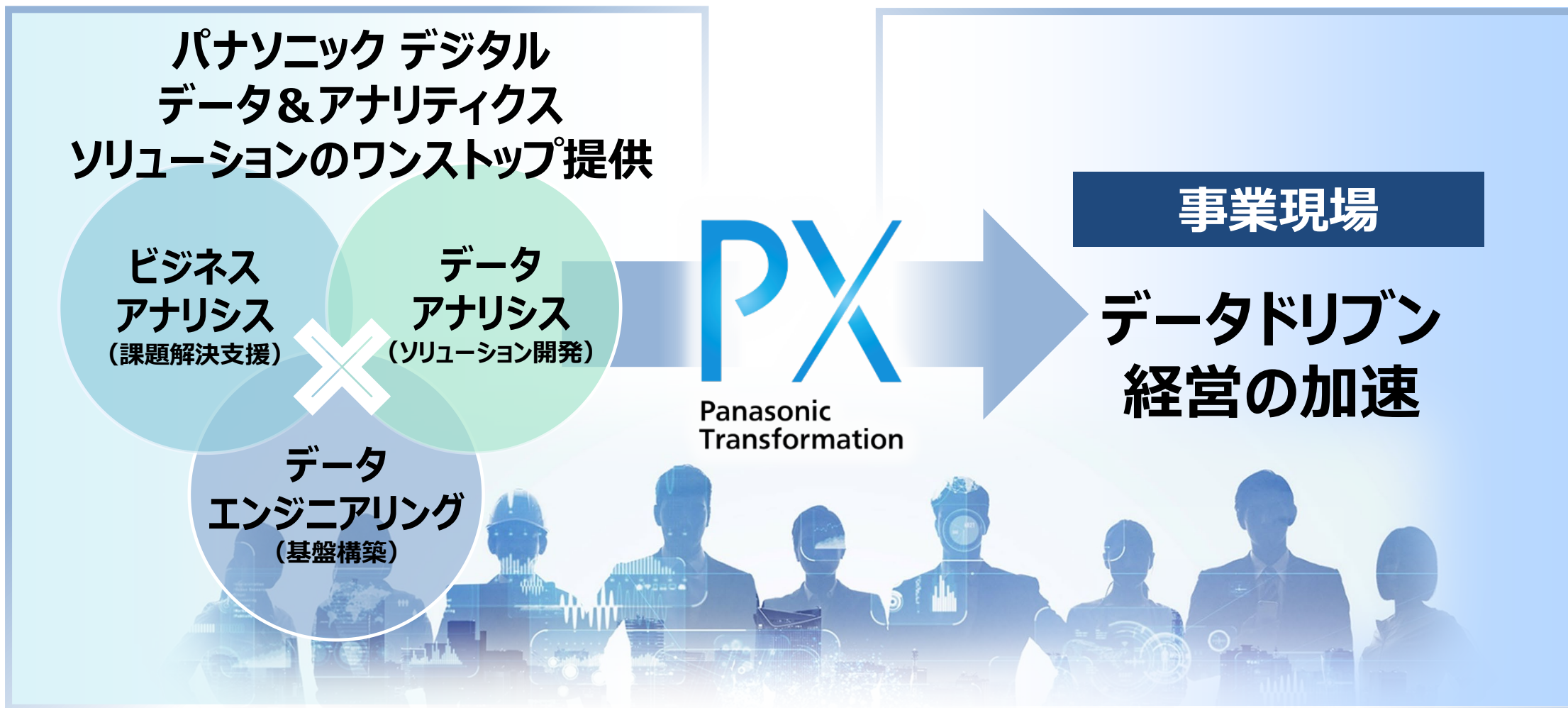
ビジネス
課題・要件

IT
戦略・企画

IT
要件定義

開発

運用





従来のデータ活用



- ✓ 専門家による分析
- ✓ 限定的なデータ活用

あるべきデータ活用



- ✓ 現場による分析（「事業理解」に基づく「データ分析」）
- ✓ 常時データを活用（「分析」と「意思決定」の一体化）

プロアクティブ

将来起り得る
事業リスクへの
対策

どうすれば実現できるのか？

何が起きるのか？

経営・マネジメント・現場の各層における
意思決定の迅速化

拡張・自動化

意思決定

データ
分析

事業変化への
迅速な対応

なぜ起こったのか？

何が起きているのか？

リアクティブ

AIU	822	12,349,000
EJK	3,680	238,681,000
HPL	1,062	85,676,000
KEE	485	8,369,000
MAH	8,569	189,301,000
QOP	6,602	102,698,000
TIK	890	24,697,000
WIG	6,280	76,002,000
AHD	2,436	57,610,000

ヒト&モノ（プラットフォーム）をワンストップで支援

ビジネスアナリシス
&データ分析

現場の課題解決・成果創出を支援

アナリティクス
プラットフォーム

現場のデータ利活用環境を拡充

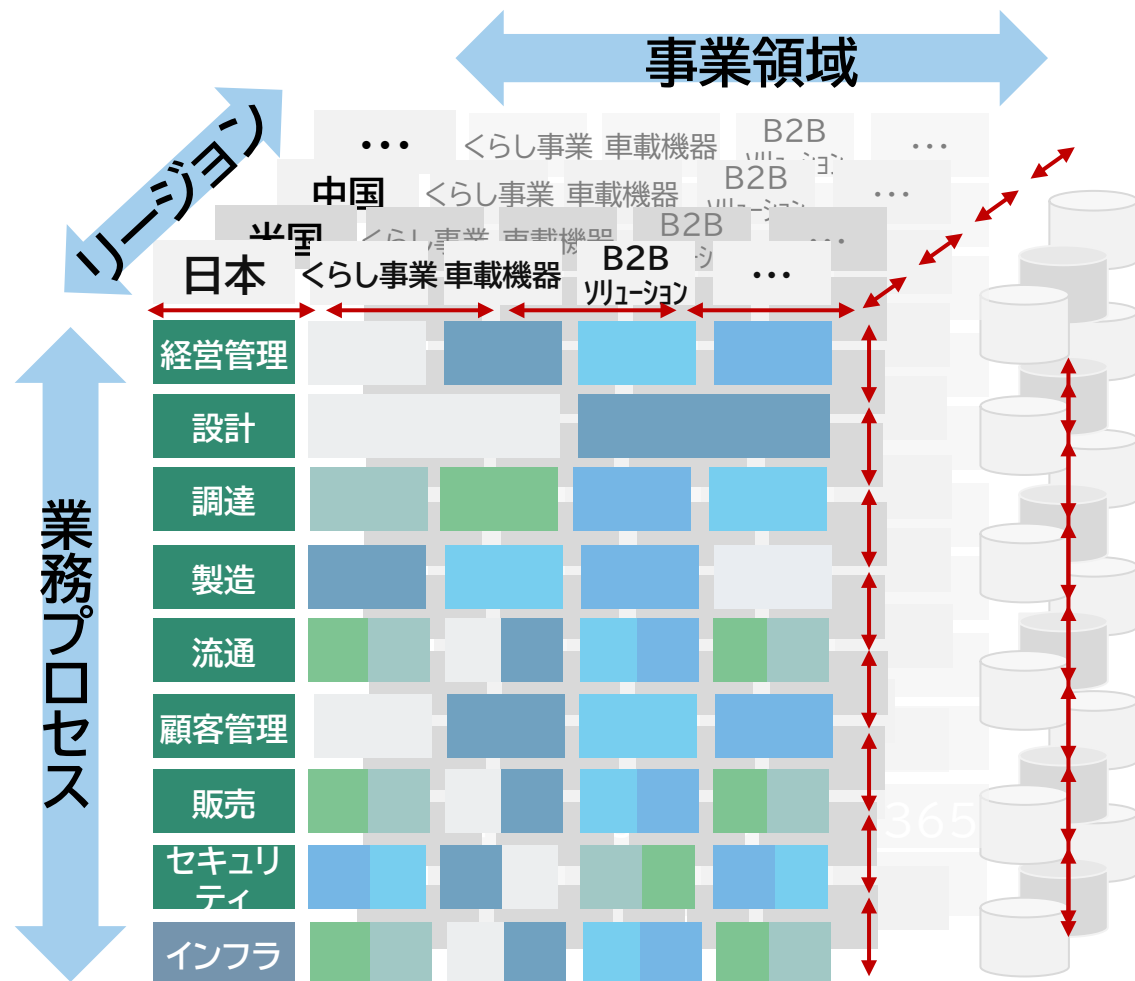


「現場ドリブン」

～事業現場に徹底的に寄り添い、伴走する～

2. グループ共通の 「PX-データドリブン基盤」とは？

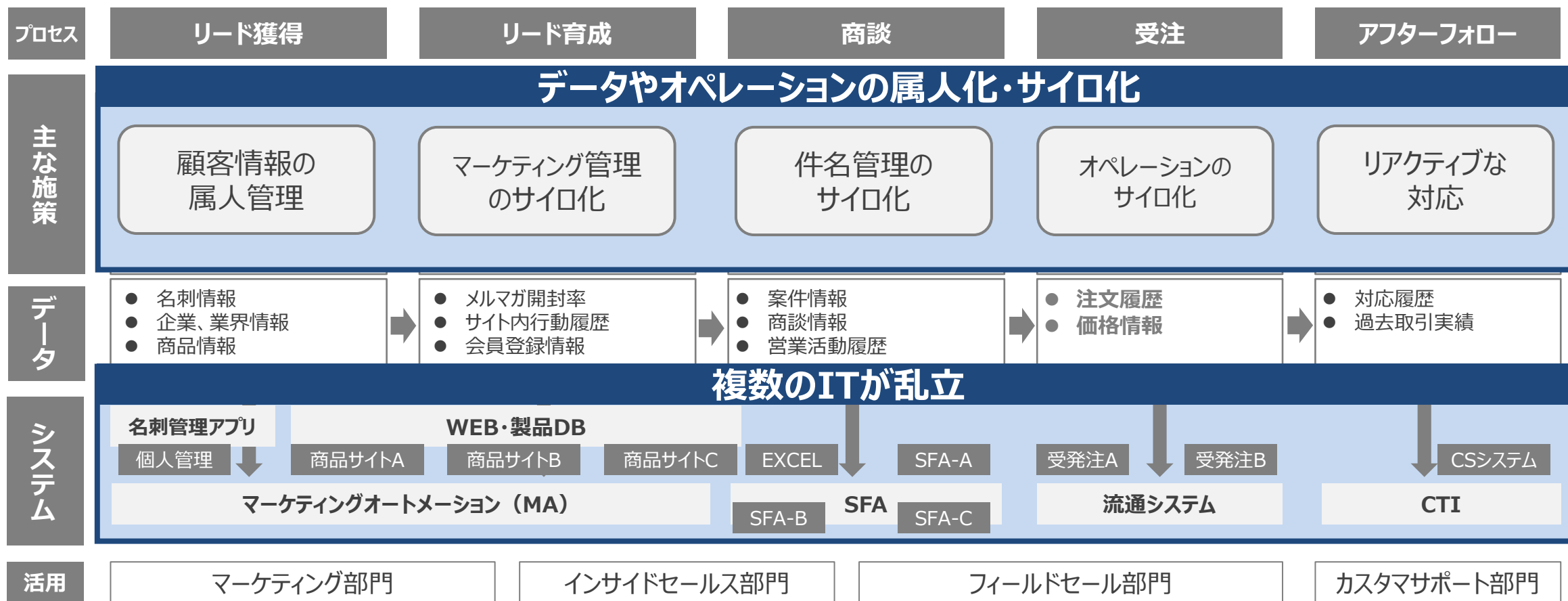
グループ全体のITは複雑化しがち・・・



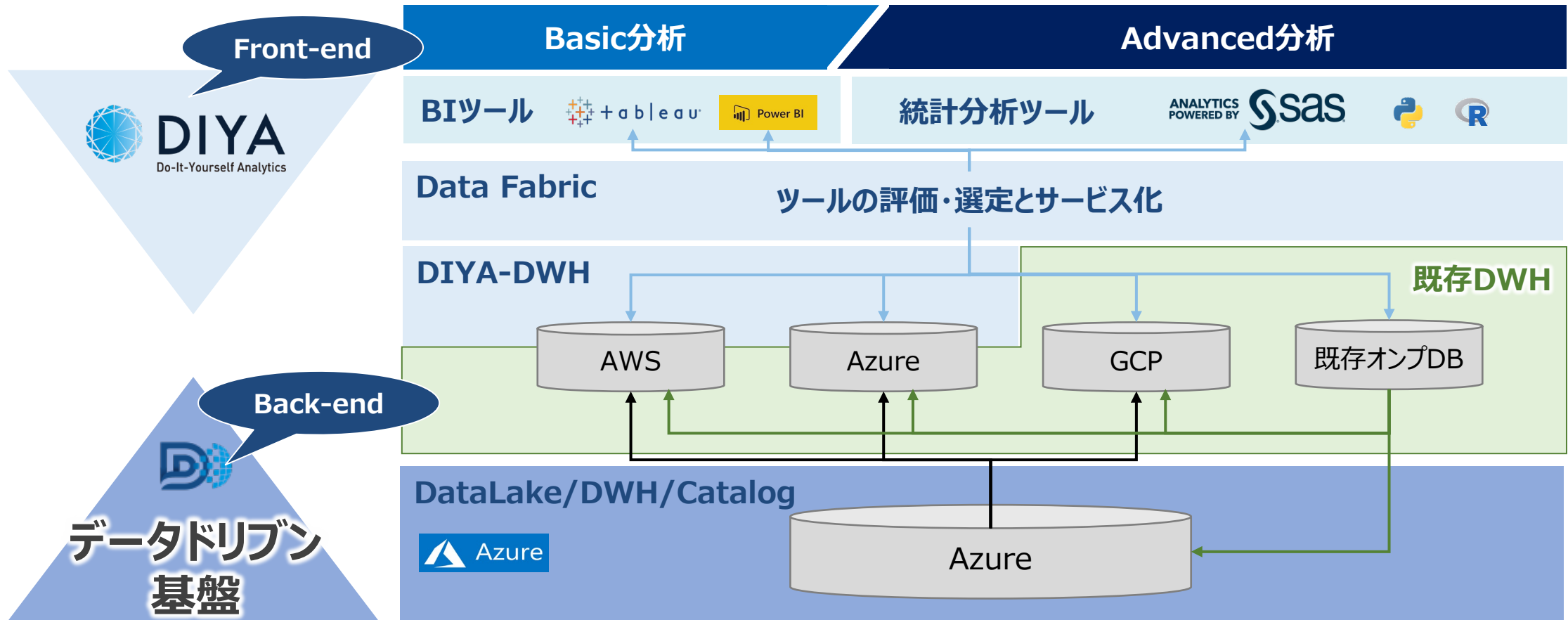
多事業の集合体

「事業×リージョン×業務」の
マトリックス経営

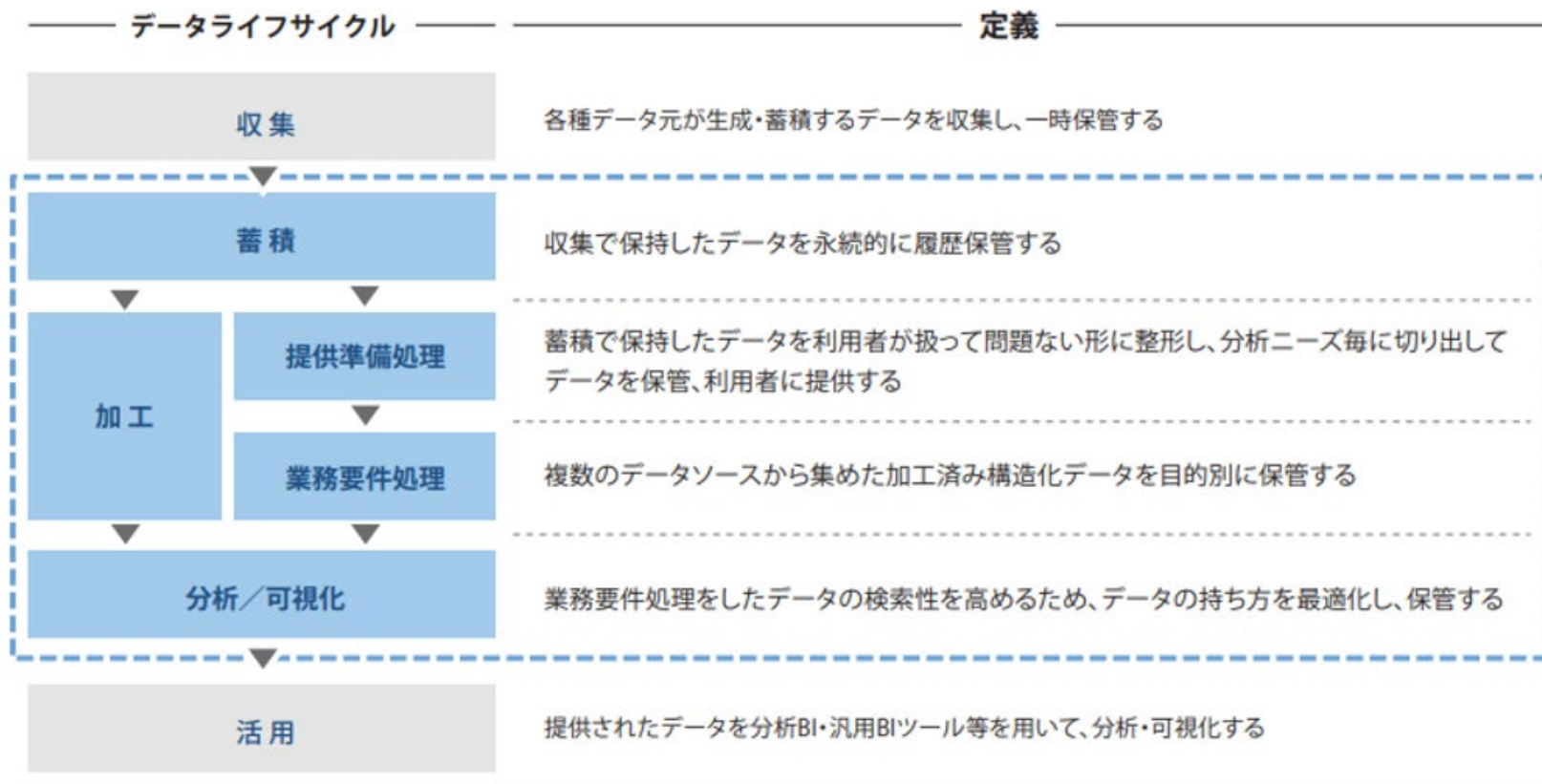
ITの乱立と同時に、属人化・サイロ化が進みがち・・・



Back-endとFront-endのグループ共通基盤を活用し、既存DWH資産を活かしつつ
事業会社のデータ基盤を最適統合化

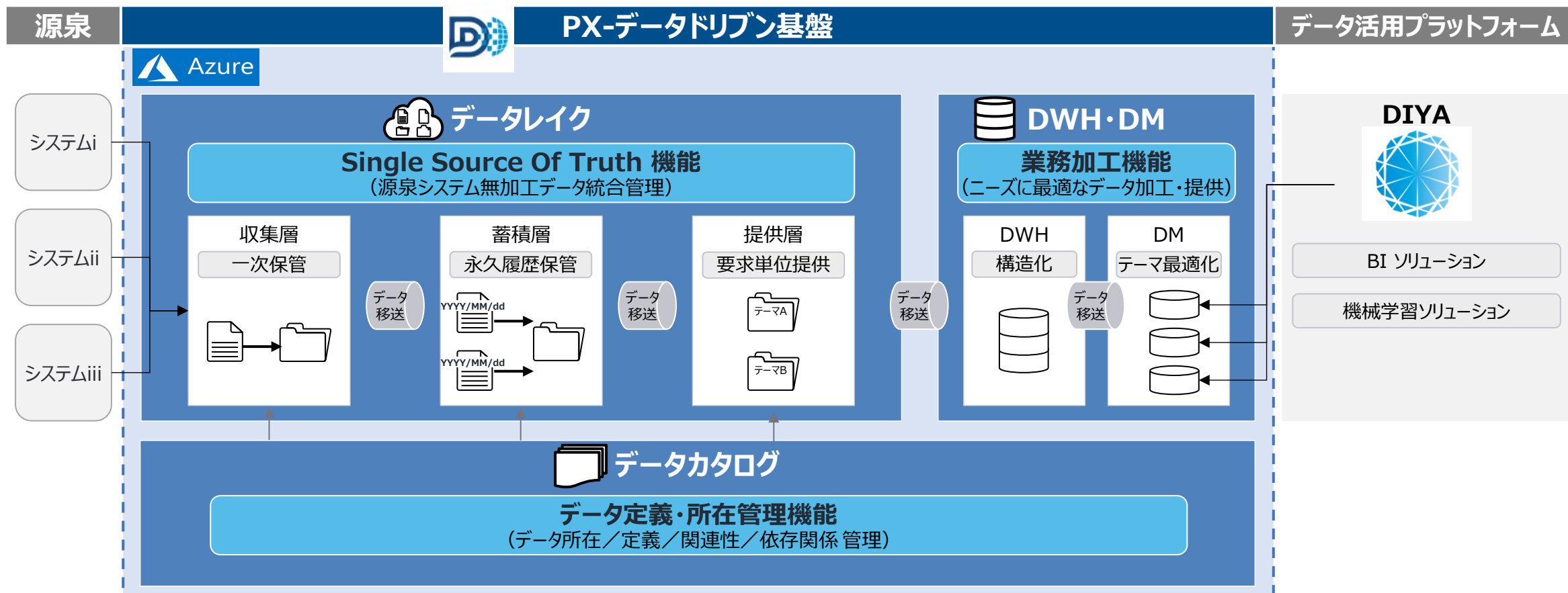


データの蓄積・加工・提供プロセスに特化することで、
ビジネスの意思決定の根拠となる「正確かつ高鮮度なデータ」を迅速に提供



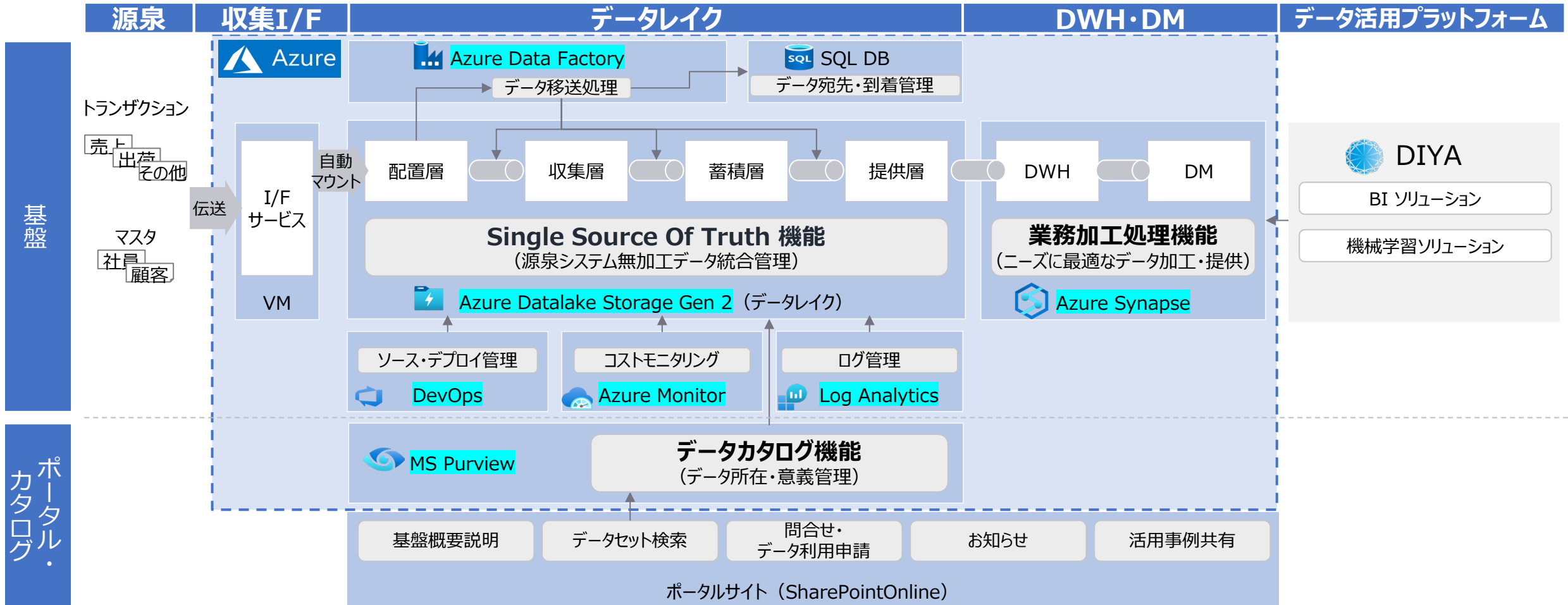
凡例：
 PX-データドリブン基盤
 Azure リソース
 データ 保管層
 機能


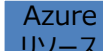
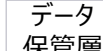

「SSOT機能を備えるデータレイク」、「業務加工処理機能を備えるDWH・DM」、
 「データ定義と所在管理機能を備えるデータカタログ」で構成



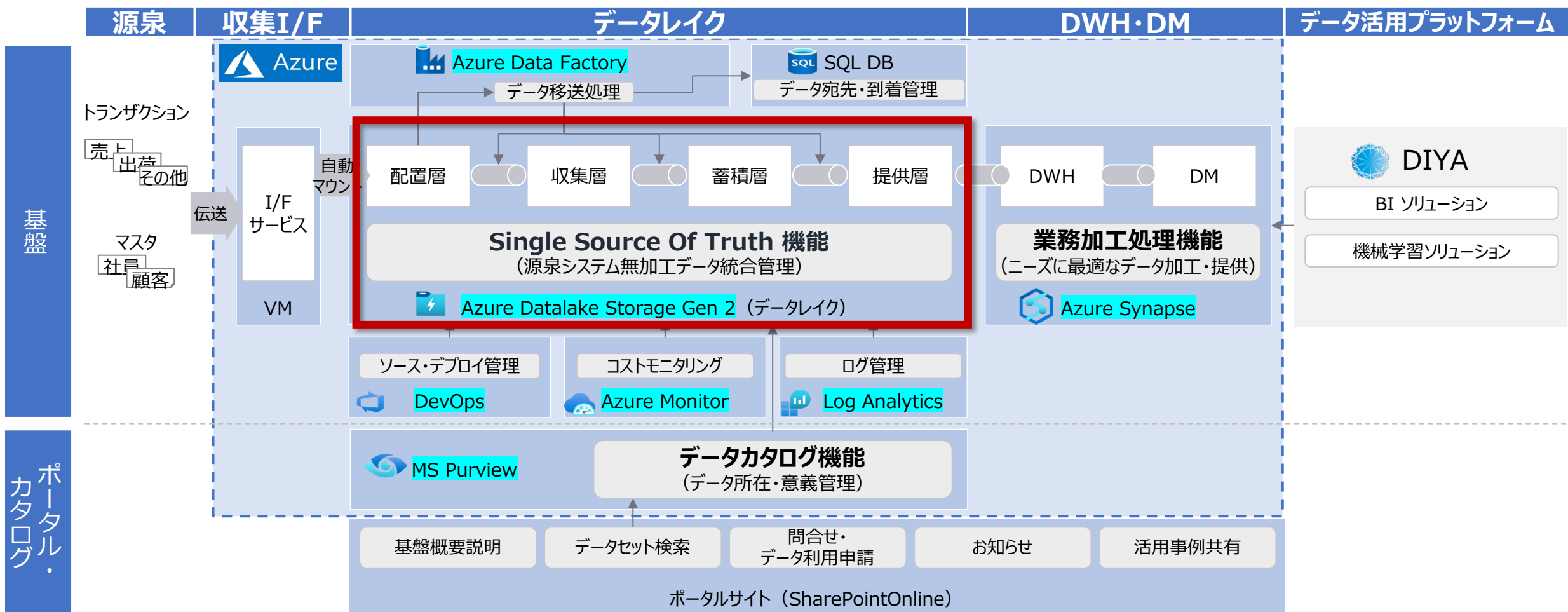
凡例：
 データドリブン基盤
 Azure リソース
 データ 保管層
 機能

Microsoft社のクラウドサービス（Microsoft Azure）をベースにしたフルクラウド構成



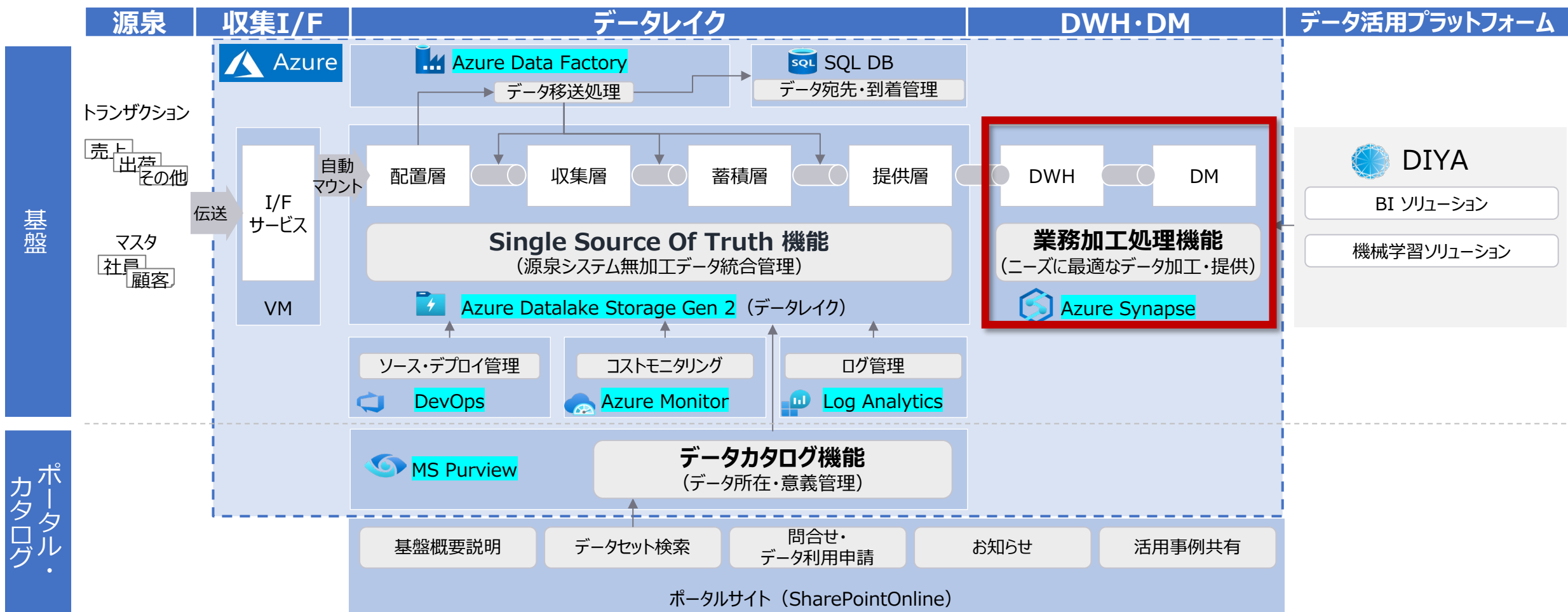
凡例：
 データドリブン基盤
 Azure リソース
 データ 保管層
 機能

① データレイク：非構造化・半構造化・構造化の全てのデータを安価に、長期間保管



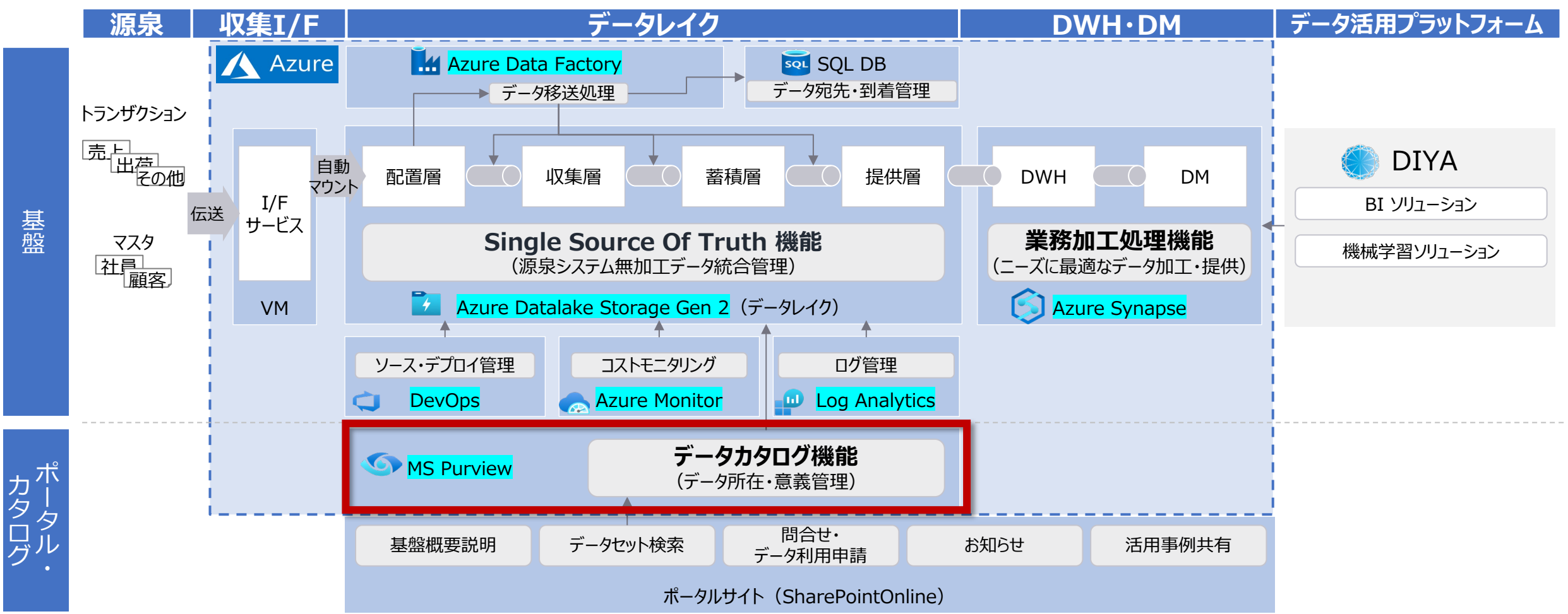
凡例:  データドリブン基盤  Azure リソース  データ 保管層  機能

②DWH/DM：データ加工とデータベースの一体化。分析目的に応じた柔軟なデータ保持



凡例：
 データドリブン基盤
 Azure リソース
 データ 保管層
 機能

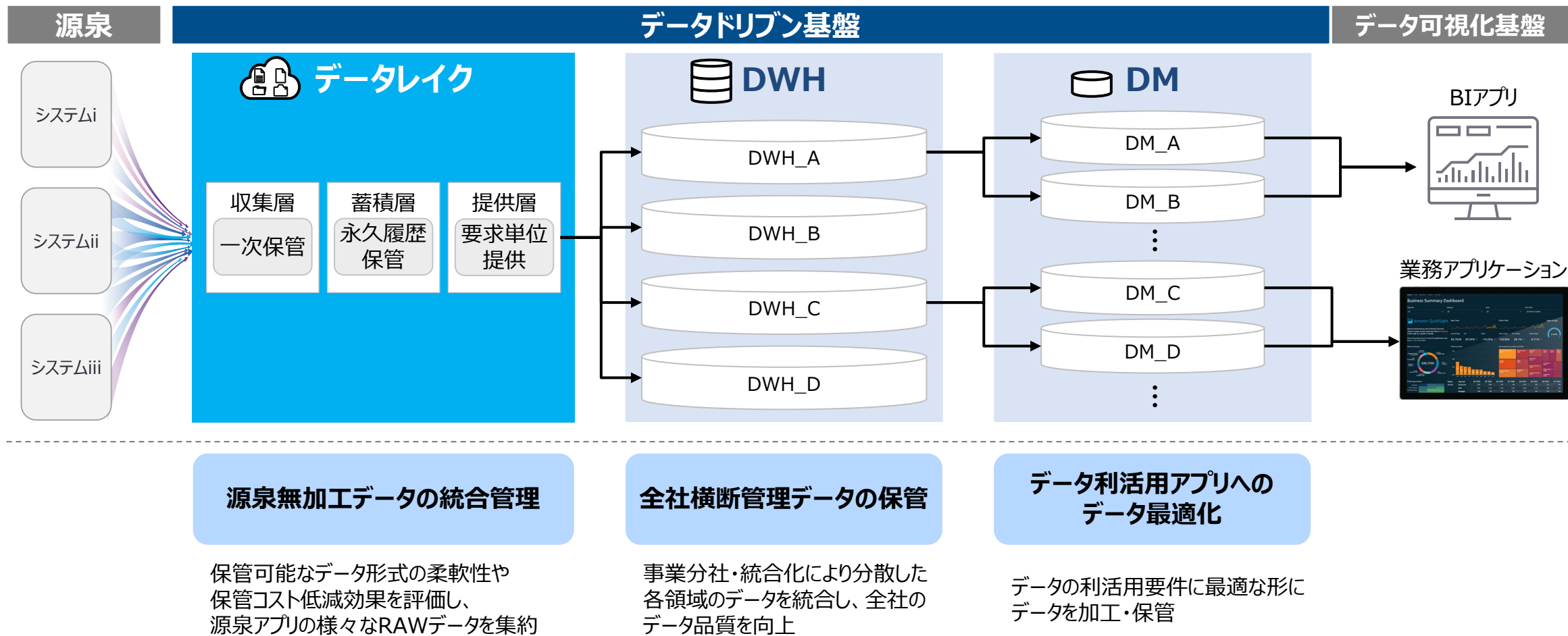
③データカタログ：ユーザのデータ検索支援、データガバナンスの実現



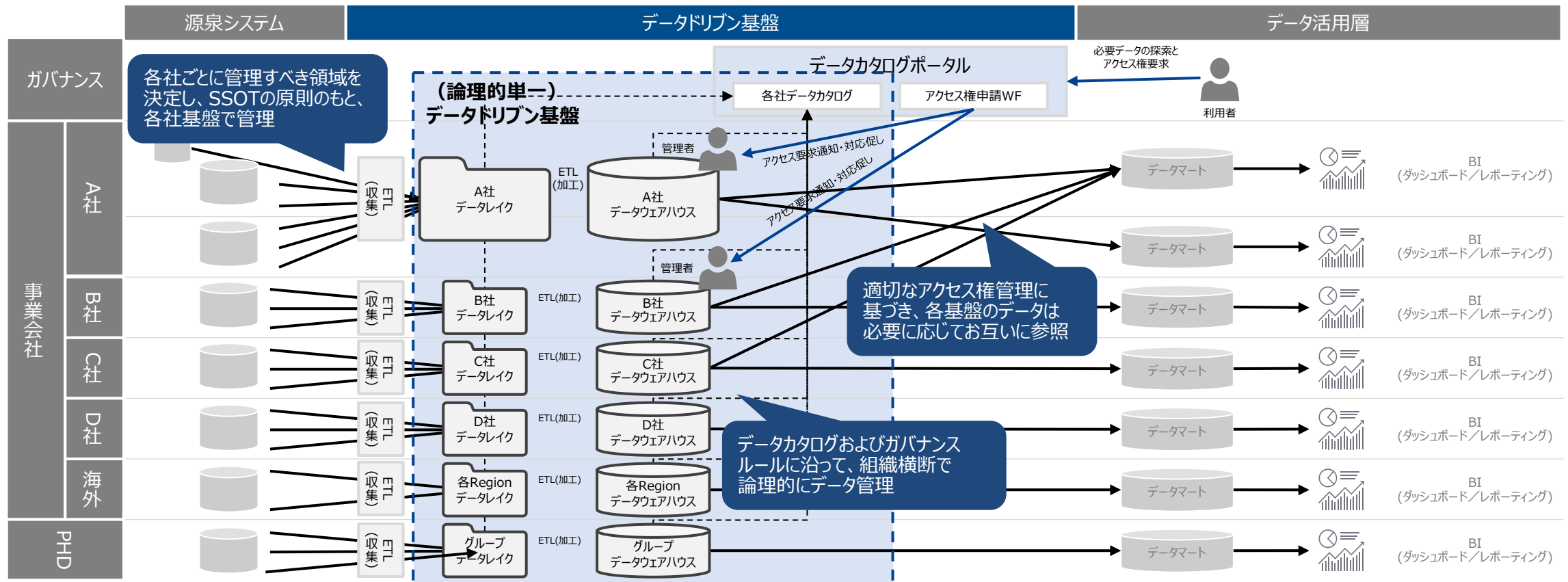
- ✓ SSOTの原則のもと、「唯一正しいデータ」を一つの基盤に集約

SSOT とは？

→「Single Source of Truth（信頼できる唯一の情報源）」の略称。信頼できるただ1つのソースを確立することで、情報の一貫性と正確性を確保し、組織内の全員が同じデータに基づいてビジネスの意思決定を行うことを保証するために使用される概念。



- ✓ IT部門側の都合で、無理に一つの環境に統合はしない
- ✓ データカタログで、基盤とデータを論理的に統合
- ✓ データのガバナンスを効かせる体制・プロセスを検討

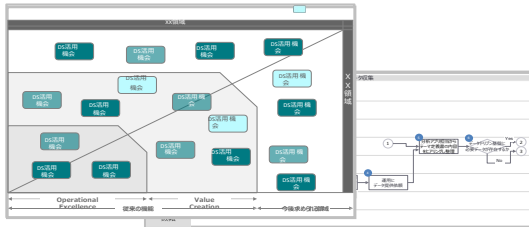


✓ データ戦略策定から基盤の構築・導入、活用定着まで、ワンストップで現場に伴走

アジャイル・循環型でスパイラルアップ

データ戦略策定・ 業務再設計

- ビジネスニーズや事例を基にデータ利活用ケースを整理
- データ蓄積のロードマップ策定
- データドリブンな標準業務化のデザイン



データ統合・活用 (データ収集／加工／分析・可視化)

□ データドリブン基盤の導入

- データレイク・DWH・DM・データカタログなど
- データドリブン基盤の設計・構築方法
- データ、アーキテクチャ・モデリング設計
(パフォーマンスの高くBIツールを活用するためのデータ設計設計)

□ データ活用のフロントエンドシステムとの連携



業務試行・定着化 および評価・改善検討

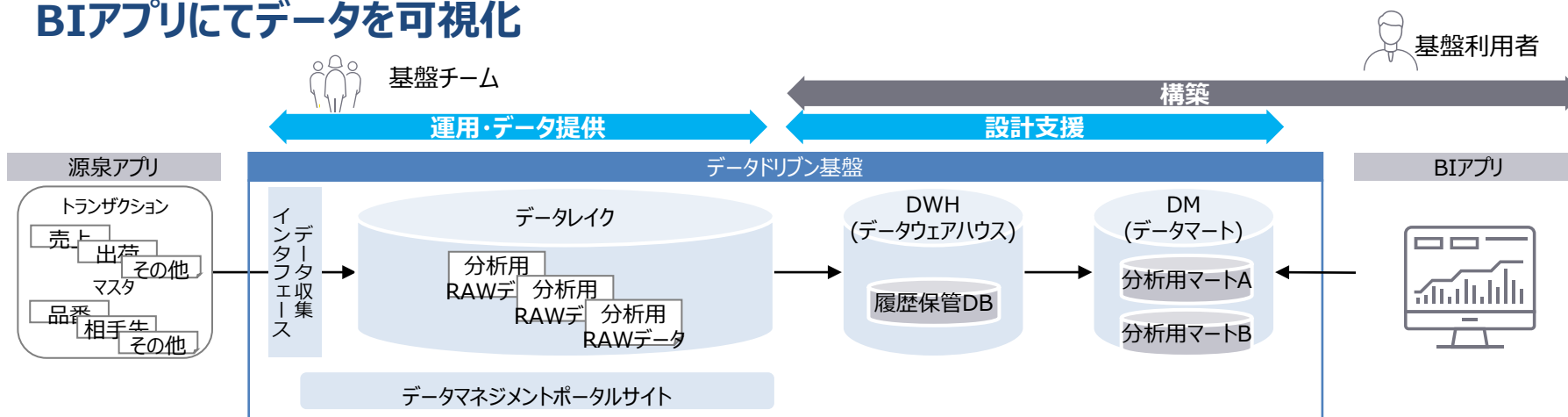
- 業務試行・定着化に向けた評価、および改善点の洗い出し



複数の組織内を横断した分析のため、大規模なデータ分析アプリケーションを構築したい

大規模データを扱えるよう、BIアプリのパフォーマンスを最適化するDWH・DM環境を構築のうえ、BIアプリにてデータを可視化

想定
アーキテクチャ



提供サービス

- | | | |
|---|-------------------|---|
| A | データレイクサービス | 提供バケットにより、源泉アプリのRAWデータを提供 |
| B | DWH・DM環境提供サービス | パブリッククラウド ¹⁾ サービスのデータベース環境を提供
(必要に応じて分析環境設計支援を実施) |
| C | データマネジメントポータルサービス | データの出自・意味・内容を管理するデータカタログ機能を提供 |

最新データをスピーディに
取得できるようになった！

大規模なデータ管理基盤の
構築・運用コストを削減できた！

データの出自・意味・内容も
簡単に追跡できる！

グループで活用することで、
データドリブン経営をさらに
加速していけそうだ！



データ収集・データ活用についてもっと詳しく知りたい方へ

お気軽にお問い合わせください

お問い合わせ

